

第6学年 社会科 学習構想案

日 時 令和6年9月27日（金）第5校時
 場 所 6年1組教室
 指導者 教諭 吉海 雄平

1 単元構想

単元名	戦国の世の統一（日本文教出版 P126～137）		
単元の目標	(1)キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解することができる。 (2)世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、文化財や地図、年表などの資料で調べ、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、表現することができる。 (3)主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	① 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解しているとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解している。 ② 想像図や文書資料、年表、地図などの資料を用いて調べ、まとめている。	① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現している。	① 我が国の歴史上の主な事象について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
織田信長と豊臣秀吉の2人の武将がどのように天下統一をしようとしたのかを理解し、現在の日本の政治やくらしと当時を比較しながら歴史事象を見ようとする児童			
単元を通した学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
信長と秀吉の2人の武将がどのように天下統一をしようとしたのかを調べて、どちらが次の総理にふさわしいかを考えよう。		2人の武将の政策などに着目して、楽市楽座や検地などの改革を比較したり、自分たちの生活と関連付けたりして考えること。	
指導計画と評価計画（6時間取扱い 本時6／6）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
課題発見	2	○「今から約500年前の市のように」をもとに戦国時代の人々やまちの様子について具体的にイメージをもち、活発となった商業や河川を利用した物の流通のあり方について考えることができる。 ○「長篠合戦図屏風」をもとに、鉄砲による戦い方の変化、天下統一に向けての2人の武将に対して学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	【態－①】（方法：発言・ワークシート） ★【態－①】（方法：発言・ワークシート） ○「長篠合戦図屏風」をもとに、鉄砲が伝わり、戦いの仕方が変化したことを読み取り、2人の武将について興味関心を高め、学習計画を立てている。
課題追究・課題解決	3	○日本と外国との関わりを調べ、海外からの貿易船がやってきて、キリスト教や鉄砲が伝わり、広まったことを理解することができる。 ○織田信長の人物調べを通して、短い期間に信長が領土を拡大したことや、信長の天下統一の進め方について理解することができる。 ○豊臣秀吉の人物調べを通して、信長の意志を継いで天下統一し、検地や刀狩を通して戦国の世を終わらせたことを理解することができる。	【知－②】（方法：発言・ノート） ★【知－①】（方法：発言・ノート） ○教科書の資料をもとに織田信長の人物像や働きについて理解している。 ★【知－①】（方法：発言・ノート） ○教科書の資料をもとに豊臣秀吉の人物像や働きについて理解している。
新たな課題	1	○2人の武将が戦国の世をどのように統一したのかについて自分なりに評価し、次の総理大臣になってもらうならどちらがよいかを考えることで、2人の政策について再認識することができる。 【本時】	★【思－①】（方法：発言・ノート） ○2人の武将がおこなったことを整理し、次の総理になってもらうならどちらがよいか根拠をもとにデジタルノートにまとめている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)				
<p>本単元は、小学校学習指導要領第6学年の内容(2)アの(カ)にあたる。 「キリスト教の伝来, 織田・豊臣の天下統一を手掛かりに, 戦国の世が統一されたことを理解すること」</p>				
教材・題材の価値				
<p>本教材は、2人の武将がどのような政策を行い、天下統一をしようとしたのか、その結果、日本にどのような変化が起きたのかなど、歴史的事象が人々の暮らしにどのような影響を与えたのかを多面的に考えることができる。さらに、現在の日本の政治制度と2人の政策とを比較することで、現在とのつながりも考えることができる教材である。</p>				
本単元における系統				
6年 「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」	6年 「戦国の世の統一」 織田信長・豊臣秀吉による天下統一と新しい政策(楽市楽座, 城下町づくり, キリスト教の保護, 検地, 刀狩)が進んだことを理解する			中学1年 「近世までの日本とアジア」
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況				(人)
調査内容	とても	まあまあ	あまり	まったく
調査活動や地図などの具体的資料を通して, 必要な情報を読み取ることができる。				
調査活動などを通して, 考え				
学習したことを自分たちの				
■本単元の学習に関する				
授業の始めに, 学習の見通				
今まで勉強したことを使っ				
友達の考えと自分の考えを				
■考察				
<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold;">個人情報に係る内容 のため一部削除</p> </div>				

3 指導に当たっての留意点

研究主題 主体的に学びに向かい, とともに学び合う児童の育成
～熊本の学び推進プランを活用した対話力の向上の取組を通して～

- 【視点1】学びに向かう力, 人間性等を涵養するための授業づくり
- 本単元では, 「『なぜ』『おそらく』が生まれる姿」をめざすため, 毎時間の授業の導入で児童が前時とのつながりを感じたり, 課題意識を持つことができたりするような資料を用いる。
- 【視点2】知識及び技能を習得するための工夫
- 本単元では, 「『分かった』『なるほど』をつぶやく姿」をめざすため, 資料から必要な情報を選び, 分かったことや考えたことをノートに整理し, タブレット PC を効果的に活用して互いの考えを共有することで, 多様な考えに触れる機会を設ける。
- 【視点3】思考力, 判断力, 表現力等を育成するための工夫
- 本単元では, 自分の考えと友達の考えを比較して考える力を育てるため, 友達の考えを知って自分が考えたことや感じたことを表現できる場面を設定する。
 - 歴史を学ぶ意味を考え, 表現する力を育てるため, 本単元の最後では, 次の総理にふさわしいのはどちらか根拠をもって考える活動を行う。
- 【人権が尊重される授業づくりの視点から】
- 自分の考えを安心して表現することができるよう, 教師自身が「認め, ほめ, 励まし, のばす」言葉かけをする。

4 本時の学習

(1) 目標

2人の武将が戦国の世をどのように天下統一をしようとしたのかについて自分なりに評価し、総理大臣になってもらうならどちらがよいかを考えることで、2人の政策について認識を深めることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (＜予想される児童の発言＞)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	1 本時のめあてをつかむ。 ① 単元の最初に設定したゴールを確認し、次の総理大臣にふさわしいと思う人を想起する。	○ 本日新しい総理大臣が決まることを話題にし、本時のゴールと成果物の例を示すことで本時の学習の見通しをもつことができるようにする。 ○ 最初のイメージで、どちらがよいかを尋ねる。
展開	35分	【めあて】 信長と秀吉の政策を振り返り、総理大臣にするならどちらがふさわしいかを考えよう。 ② 本時の学習の進め方を確認する。 2 課題の解決に向けて活動する。 ① 自分の考えをより詳しくするために、教科書やインターネットを使って調べる。 ② 友達と話し合い、自分の考えをさらに広げる。 ③ 調べ学習や話し合いをもとに自分の考えをデジタルノートにまとめる。 ※ ①～③を各自、選択して活動する。 【期待される学びの姿】 信長と秀吉の2人の武将の政策を、経済や外交、内政、文化などさまざまな視点から比較・整理し、現代の日本で次の総理大臣にふさわしいのはどちらかを自分なりに根拠をもって考えている。	○ 児童の主体的な学びを促すために、各自で、教科書、タブレットPC、グループ協議など必要に応じて活動するよう伝える。 ○ 児童の主体的な学びにつなげるために、一人学び→ペア→グループの段階を踏まず、児童自らの考えで、学習形態を選択できるようにする。 ○ 授業支援アプリ（ロイロノート）の共有ノート上でデジタルノートを作成させ、児童同士が他の児童の状況を把握できるようにすることで話し合いを生み出すようにする。 【具体の評価規準】 思—① ○ 2人の武将がおこなったことを整理し、次の総理になってもらうならどちらがよいか根拠をもとにデジタルノートにまとめている。 【到達していない児童への手立て】 ○ 適宜机間指導を行い、作成が進まない児童には、作成中の他の児童のタブレットPCの画面を共有し、参照できるようにする。
終末	5分	4 学習の振り返りを行う。 ◇ 初めは信長の方がよいと考えていたけど、今の日本は犯罪が多いから、秀吉の方がよいという友達の意見で考えが変わりました。	○ 朝鮮出兵に失敗したことにより、豊臣家の力がおとろえたことを振り返り、次の時代はどうなったのか予想させることで次時への意欲を高める。

【板書計画】

9/27 戦国の世の統一

④ 信長と秀吉の政策を振り返り、どちらが次の総理大臣にふさわしいかを考えよう。

⑤ 信長は経済の発展や海外との交流面で優れていて、秀吉は平和で平等な社会の実現の面で優れていると考えられる。

織田信長

- ・鉄砲を戦いに大量に用いて急速に勢力を拡大した
- ・豪華な安土城を築き、城下町をつくった
- ・外国との貿易をおこない、南蛮文化を取り入れた
- ・キリスト教を保護し、敵対する仏教と戦った
- ・楽市楽座でだれでも自由に商売できるようにした
- ・関所をなくして人が自由に行き来できるようにした



豊臣秀吉

- ・明智光秀をたおし、天下統一を成しとげた
- ・大坂城を築き、政治や物流の拠点にした
- ・検地で田んぼの大きさを測り、だれがどれだけのねんぐをおさめるのかを記録した
- ・刀狩で百姓が武器を持つことを禁止して、反乱が起きないようにした
- ・朝鮮に2度出兵した（失敗）

【ICT活用計画】

児童による調べ活動時の活用計画、教師による教材提示の計画

【単元や学習の導入場面】電子黒板

教材提示 ・本時のゴールの成果物の例を拡大提示して課題意識を生むようにする。

【自分の考えをもつ場面】タブレットPC

情報の収集 ・考えを広げたり深めたりできるよう、インターネットを活用して調べ、それを利用したり整理したりしながら、成果物を作成する。

【学び合いの場面】タブレットPC

考えの共有 ・グループで考えを交流する際に、自分の考えの根拠を示しながら共有することで、どの視点から2人を比較しているのか把握できるようにする。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

【熊本県学力調査過去問題から】 H23大問4 ・資料から必要な歴史用語を探し出して記述する問題に取り組むことができる。
・年表をもとに天下統一の様子についてまとめる問題を通して、時間的推移を捉えることができる。

H20大問2 ・歴史上の人物を時代順に並び変える問題に取り組むことができる。